

豪州Blackwater炭鉱への出資に関するIR説明会（2024年8月22日開催）
質疑要旨

注：説明会開催時点の情報に基づく内容です。

説明者 常務執行役員 永井 竜一
参与 財務部長 池田 悟
原料事業企画部 上席主幹 小泉 佳紀

Q Blackwater炭鉱（以下BW炭鉱）へ出資し、原料炭事業運営の意思決定に参画することのことだが、経営に関わることでどういうプラスアルファがあるのか。

A 運営に参画と表現した一番大きなポイントは、原料炭の事業運営に関する重要な決定事項に対して、当社に拒否権があること。例えば、今後の拡張計画等について、当社の意見を反映していくということだ。

Q BW炭鉱が産出する非微粘炭、準強粘結炭は、御社の事前処理設備との親和性に特別な特徴があるのか。本件により新たな設備投資が必要となるか。

A 鉄鋼各社ごとに、石炭の事前処理設備の持ち方は異なるが、当社の場合、事前処理設備を活用し、粘結性の低い石炭を一定程度配合しても、コークス強度を維持して出銑比を極力高める操業を行っている。BW炭は、粘結性が相対的に低いため安価なものの、炭化度が高いので、当社独自技術との相性が極めてよい石炭だ。

既に現状、当社はBW炭を事前処理の上、使用している。新たな設備投資は不要だ。

Q 価格決定方式を教えて欲しい。

A 基本は市況の連動であり、特別なフォーミュラがある訳ではない。

Q 2024年4月に、WHC社がBMAからBW炭鉱を取得してから、本件まで間もないが、背景を教えて欲しい。

A WHC社の意図であり、当社はコメントする立場にない。

Q クロージングに向けて、これから半年以上ある形になるが、為替など条件が大きく変動する状況と思う。最終的に日本円建てでの出資額が確定するタイミング、リスク管理について考え方を確認させていただきたい。

A 各国規制当局からの承認を経てクロージングとなる。クロージングの時期が明確に定まっている訳ではないので、為替予約も含めて適切に対応していきたい。

Q 2024年度の原料事業の実力ベースの事業利益の見通しは1,700億円だが、本件によりどのくらいの収益貢献を見込んでいるのか。

A 具体的な金額は、コメントを差し控える。今年の年末にクロージングすると想定すれば、2025年度期首から収益貢献する見込みだ。

Q 第1四半期のIR説明会で、2024年度内にD/Eレシオを0.7台にする目標を掲げていたが、今回の出資によってその目標に変更はあるか。

A 出資額は1,000億円強であり、その資金調達は当社の手元資金で対応する。新規の借り入れ等は考えていないため、先般申し上げた目標に影響はない。年度内にD/Eレシオを0.7台に引き下げる取り組みを変わらず進めていく。

以 上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。